

〔比古婆衣五〕えみし

まづ日本書紀神武卷十月午年に、大倭の國見丘にて、八十梟帥を誅たまひ、また道臣命に勅して、其餘黨をうたせ給へる時、皇軍密旨を奉てうたへる歌二首の中に、愛瀨詩鳥毗囊利毛々那比苔比苔破易倍迺毛多牟伽比毛勢儒とみえたる愛瀨詩は、八十梟帥等をさしていへる稱なり、○中さてまたえぞが島より、陸奥に渡り來て暴行ぶる黨類をも、愛瀨詩といへるなるべし、玄かるに大倭なるは、ありけむかにはやくなごりなく滅亡せたりしかば、おのづから陸奥わたりなるをのみ呼ぶ名となりて、やがてそれが本郷の號にもおふせて、えみしの國と稱ふ事とはなりしなるべし、但し上代には、その愛瀨詩の本郷あることをばしらで、たゞ其種かくてそのえみしを、蝦夷と類を然呼びてありつるを、後にその本郷の知られたるなるべし、かくてそのえみしを、蝦夷とかくは、古事記景行段にはじめて見えたり、そははやくより蝦字の訓を借りて、夷字に加へて、書くこと、定められたりつるものなるべし。

〔野史二百八十八〕蝦夷○中

北陸杞憂云、松前之地、在西蝦夷、即古所謂毛人國、緬惟古昔與羽之士、津輕、秋田古作鮑田、野代古作淳代、概稱蝦人、山海輿地圖作野蓋訛言也、今所謂蝦夷、古謂之島蝦夷、日本書紀作海蝦夷、言所渡海來之夷人也、按文獻通考、其人鬚長四尺、其稱蝦者、蓋取蝦鬚之美、又按八紘澤史云、則有蝦夷國、即其蝦國、不與此同。

〔日本書紀神代〕陰陽始遯合爲夫婦、○中 迺生大日本、日本此云耶麻、豐秋津洲、○中 次生越洲、

〔日本書紀通證神代〕今按夫水繞其外、謂之洲、則八洲各應別島、恐不應分陸續之地爲二洲也、今也

越洲既接秋津洲中、且以踰角鹿坂爲名、俱爲可疑、或謂北越地方、山嶽重阻、其初難通、故立界限、亦得此名也、蓋蝦夷初見景行紀、而齊明紀謂之渡島、此島自古屬我邦、不爲外國、西土諸籍所載亦然、或內附、或背叛、固其常、而紀中動並稱隼人蝦夷、蓋謂國之西戎東夷也、因是觀之、北陸五國、則固爲秋津洲中、此所謂越洲、疑今毛人島、歟、渡島之名義亦相近、蓋奧羽三越、其所往來以取用、故後世三